

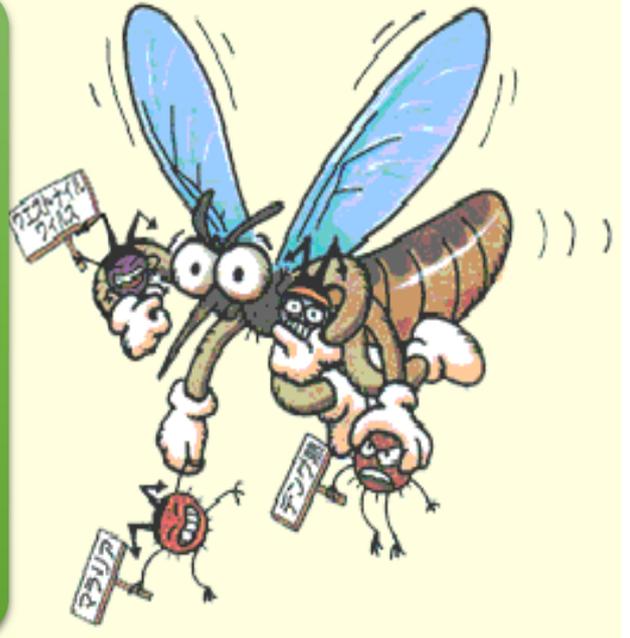
デング熱

Dengue Fever

日本では馴染みのない名前の感染症ですが、マラリアと同様にアジアや太平洋諸島など熱帯亜熱帯地域に広く分布するウイルスによって引き起こされる感染症です。

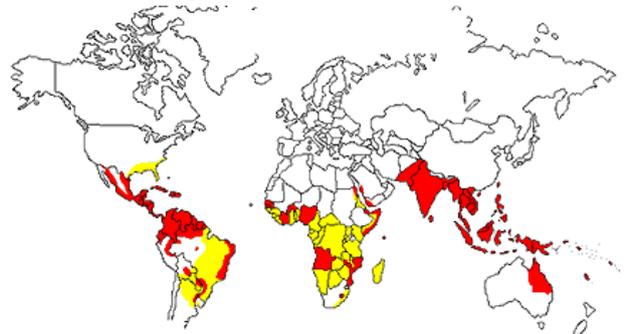
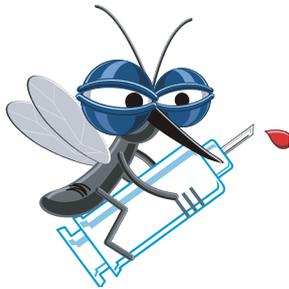
デング熱は流行する地域全体で年間約1億人の患者が発生しており、昨年は広い地域で爆発的な流行が頻発しました。

マラリアと異なり、デング熱を媒介する蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）は空き缶などに溜まった水や竹の切り株に溜まった水でも発生するために都会で流行することも多く、ある意味ではマラリアよりも感染する危険性は高いと言えます。



病原体

- デング熱ウイルス



デング熱の流行地域

感染経路

- デング熱ウイルスに感染したネッタイシマカ及びヒトスジシマカの蚊に刺されることにより感染します。



ネッタイシマカ



ヒトスジシマカ

潜伏期間

- 3～15日（普通5～6日）

症状

- 突発の発熱。熱は38～40℃程度で5～7日間持続し、激しい頭痛・関節痛・筋肉痛発疹・軽い皮下出血の症状が現れる。

予防法

予防接種も予防薬もありません。
蚊に刺されないようにすることが唯一の予防法です。

- 衣服は長袖、長ズボン（できれば白っぽい色の厚手）などで肌の露出を少なくする。
- 網戸・蚊帳を用いたり、昆虫忌避剤、殺虫剤、蚊取り線香などを使用する。
※ 殺虫剤等で、ガス式・ポンプ式の物は機内への持ち込み制限があります。

